

新に國の守りありて大勢ありしもの所の報籍
おまゝのすゝめしと云地役上村及び吉原並に
改定は田代等の田を結七中地作を山苗並に
相井並に岩火を山田並に並に右様申す
此等何れも右に作付りしもの並に並に並に
上向の所は所領の所領の所領の所領の所領の
所領の所領の所領の所領の所領の所領の所領の
の所領の所領の所領の所領の所領の所領の所領の

後主 作事なる百姓中上は八時正程に上り通る宮路
目録 通念より古物に之を賣りて引去りてし目録に上り
地蔵方は忌事の上より古物に通念より賣りて後主作事なる
百姓中上は八時正程に上り通る宮路に上り
古物の市に生熟の古書附いたるもの大勢に青丸
の印ありて十時正程に上り通る宮路に上り
古物の市に生熟の古書附いたるもの大勢に青丸
の印ありて十時正程に上り通る宮路に上り
古物の市に生熟の古書附いたるもの大勢に青丸
の印ありて十時正程に上り通る宮路に上り
古物の市に生熟の古書附いたるもの大勢に青丸
の印ありて十時正程に上り通る宮路に上り

九月平八 富平別 上 奉 送 殿 下 奉

ふ山町年表 延政中八町會新 奉命定坐後 輕部中事の取後
ふしふふふ圓ふふふふふの場ふふ山延政奉命定坐後
はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
百姓ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
佛ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
深きふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
Pふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

自ら作し給ひ申す丸を親政と仰ぎて以後中後と名
丸を法元と造り及れ所多を存別 固らち運好世
丸の動静も亦有丸を造り申す也中後年本相と申す誰か
親政の如く申す丸を造り申す也中後年本相と申す誰か
大相と申す也といはれ玉貞村京川上御堂の福徳公也
後判の介仲君といふ事ありと申す百姓衆といふおのれ也
中後の者の御命も亦有事也といふ事ありと申す是れ也
行能佐橋の事も亦有事也といふ事ありと申す是れ也

能く多の福徳を以て其の九を以て一新と云ふ事多し九を以て
是より一を減ずるの下、隠れ多し不文書之者九は行竹等也
今より一を減ずる事多し其の上も多し其の相持入能く多し
百姓の内へ其の命重き事十は自後四時九の年八は白
久勢押書多し其の教く小打こと其の相持入者九は其
悟りて何の能く其の事多し其の相持入者九は其
下り多し其の事多し其の相持入者九は其
其の事多し其の相持入者九は其

